

第2章 退所生へのアンケート調査について

1. 調査の概要 P19
 - 1) 調査の目的
 - 2) 調査対象者
 - 3) 調査の実施時期
 - 4) 調査の方法
 - 5) 回答数
 - 6) 調査内容

2. 退所生へのアンケート調査結果 P20
 - 1) 回答者の基本属性
 - 2) 仕事について
 - 3) 新型コロナの影響と相談相手
 - 4) 支援の状況と今後の要望

第2章 退所生へのアンケート調査について

1. 調査の概要

1) 調査の目的：

児童養護施設の退所生に対して、新型コロナウイルスの影響下における生活状況や必要な支援について把握し、その結果を社会的養護の関係者や広く社会に発信することで、支援の拡大を目指す。

2) 調査対象者：

アウトリーチ・プロジェクトに参加を申し込んだ187か所の児童養護施設がケアパッケージを送った2,509名の退所生

3) 調査の実施時期：

2020年5月～8月

4) 調査の方法：

施設からケアパッケージとともに、匿名のアンケート調査票（A 4判表裏2ページ）を退所生に郵送またはメールで送信または直接手渡す。回答した調査票は施設が回収し、東京ボランティア・市民活動センターに送付する。

5) 回答数：

1,871名（回答率：74.6%） その内、期限内に届いた1,851名を分析

6) 調査内容：

Q 1 本人について（性別、年齢、属性、現在の住所、同居者、施設との連絡）

Q 2 新型コロナによる生活の変化

Q 3 現在困っていること

Q 4 現在の仕事の状況

【働いている場合】

業種、雇用形態、新型コロナ感染拡大前の月収、新型コロナによる減収

【働いていない場合】

働いていない理由

Q 5 現在受けている公的支援

Q 6 困ったことを相談する相手

Q 7 今後希望する支援

Q 8 その他、希望やメッセージなど

2. 退所生へのアンケート調査結果

【分析】法政大学 現代福祉学部・人間社会研究科 教授 岩田美香

1) 回答者の基本属性

①性別と年齢、属性

最初に回答者の基本属性について見ていく。回答者の性別は、男性が822名（構成比44.4%）、女性が1008名（54.5%）である【表1】。年齢階層では、10代が564名（30.5%）、20代が1,158名（62.6%）であり、両者を合わせると9割を超える【表2】。

年齢階層別の性別では、10代では男女差はほとんどないが、20代では男性が43.4%に対し女性が56.5%、30代以上では男性34.7%に対し女性が65.3%と、女性の回答者が多い【表3】。

表1 回答者の性別

	回答数	%
男性	822	44.4
女性	1,008	54.5
その他	4	0.2
無回答	17	0.9
合計	1,851	100.0

表2 回答者の年齢階層

	回答数	%
10代	564	30.5
20代	1,158	62.6
30代以上	126	6.8
無回答	3	0.2
合計	1,851	100.0

表3 年齢階層別の性別（上段：人、下段：%）

		合計	性別			
			男性	女性	その他	無回答
年齢	10代	564	279	277	3	5
		100.0	49.5	49.1	0.5	0.9
	20代	1158	501	652	1	4
		100.0	43.3	56.3	0.1	0.3
	30代以上	126	42	79	0	5
		100.0	33.3	62.7	0.0	4.0

回答者の属性では、勤労者が1,252名（67.6%）と7割弱を占め、学生301名（16.3%）、主婦113名（6.1%）、無職69名（3.7%）と続いている【表4】。

性別で見ると、学生と無職では大きな男女差は見られないが、男性の約8割（77.6%）

は勤労者、主婦は女性のみとなっている。年齢別の特徴では、10代は学生が33.2%と高く、主婦は30代以上で25.0%、4人に一人となっている【表5】。
以下、表5以降のクロス集計では無回答を除いて集計している。

表4 回答者の属性

	回答数	%
勤労者	1,252	67.6
主婦	113	6.1
学生	301	16.3
無職	69	3.7
その他	37	2.0
無回答	79	4.3
合計	1,851	100.0

表5 回答者の性別・年齢別による属性（上段：人、下段：%）

		合計	属性				
			勤労者	主婦	学生	無職	その他
性別	男性	796	618	0	138	24	16
		100.0	77.6	0.0	17.3	3.0	2.0
	女性	962	627	111	163	42	19
		100.0	65.2	11.5	16.9	4.4	2.0
	その他	4	3	0	0	0	1
		100.0	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0
年齢	10代	546	327	9	181	16	13
		100.0	59.9	1.6	33.2	2.9	2.4
	20代	1106	848	74	118	46	20
		100.0	76.7	6.7	10.7	4.2	1.8
	30代以上	120	77	30	2	7	4
		100.0	64.2	25.0	1.7	5.8	3.3

②施設との連絡状況、現在の住所（都道府県）

今回のプロジェクトは施設を通して退所生への支援につながっているが、日ごろの施設との連絡状況は、どの程度取っているのだろうか。時々連絡を取っている者が1,053名（56.9%）と最も多く、より頻繁に連絡を取っている622名（33.6%）を合わせると9割近くなる。反対に連絡を取っていない者は120名（6.5%）であり、今回のプロジェクトを通して施設と繋がったと考えられる【表6】。

性別や年齢の違いでは、若干の差ではあるが、女性や施設を出てからの時間が浅いと思われる10代において、頻繁に施設と連絡を取っている傾向がある。回答者の属性による違いでは、全体的に連絡を取っているが、特に学生（43.3%）と主婦（40.0%）において、より頻繁に施設との連絡を取り合っている割合が高い。反対に「施設との連絡なし」と回答している者の中では、無職の者が8.8%となっており、割合としては1割弱であるものの他に比べて高くなっている【表7】。

表6 施設との連絡

	回答数	%
あり	622	33.6
ときどきあり	1,053	56.9
なし	120	6.5
無回答	56	3.0
合計	1,851	100.0

表7 性別・年齢別・属性別による施設との連絡状況（上段：人、下段：％）

		合計	施設との連絡		
			あり	ときどきあり	なし
性別	男性	797	248	498	51
		100.0	31.1	62.5	6.4
	女性	980	366	546	68
		100.0	37.3	55.7	6.9
	その他	3	2	1	0
		100.0	66.7	33.3	0.0
年齢	10代	549	220	302	27
		100.0	40.1	55.0	4.9
	20代	1123	364	677	82
		100.0	32.4	60.3	7.3
	30代以上	121	38	72	11
		100.0	31.4	59.5	9.1
属性	勤労者	1221	382	747	92
		100.0	31.3	61.2	7.5
	主婦	110	44	59	7
		100.0	40.0	53.6	6.4
	学生	291	126	156	9
		100.0	43.3	53.6	3.1
	無職	68	25	37	6
		100.0	36.8	54.4	8.8
	その他	34	16	16	2
		100.0	47.1	47.1	5.9

回答者が現在居住している都道府県については、47全都道府県から回答が得られており、プロジェクトは国内で広く活用されたことがわかる。構成比の高い順では、東京都（14.4%）、大阪府（8.5%）、千葉県（7.6%）、愛知県（7.3%）、神奈川県（6.1%）、埼玉県（5.7%）、京都府（5.5%）となっている【表8】。

表8 回答者が現在居住している都道府県

	回答数	%		回答数	%		回答数	%
北海道	35	1.9	石川県	30	1.6	岡山県	15	0.8
青森県	1	0.1	福井県	9	0.5	広島県	8	0.4
岩手県	1	0.1	山梨県	36	1.9	山口県	18	1.0
宮城県	9	0.5	長野県	13	0.7	徳島県	4	0.2
秋田県	7	0.4	岐阜県	58	3.1	香川県	9	0.5
山形県	5	0.3	静岡県	19	1.0	愛媛県	25	1.4
福島県	40	2.2	愛知県	136	7.3	高知県	11	0.6
茨城県	58	3.1	三重県	13	0.7	福岡県	23	1.2
栃木県	18	1.0	滋賀県	49	2.6	佐賀県	7	0.4
群馬県	16	0.9	京都府	102	5.5	長崎県	24	1.3
埼玉県	105	5.7	大阪府	157	8.5	熊本県	38	2.1
千葉県	141	7.6	兵庫県	71	3.8	大分県	18	1.0
東京都	267	14.4	奈良県	5	0.3	宮崎県	13	0.7
神奈川県	113	6.1	和歌山県	3	0.2	鹿児島県	19	1.0
新潟県	8	0.4	鳥取県	11	0.6	沖縄県	23	1.2
富山県	3	0.2	島根県	8	0.4	無回答	49	2.6
						合計	1,851	100.0

③現在の住居、一緒に暮らしている人

現在の住居については、回答の選択肢に「公営住宅」「民間賃貸住宅」といった住居の種類を回答する選択肢と、「家族や親族と同居」「知人宅・友人宅」といった一緒に住んでいる人を回答する選択肢が混在してしまい、2つ以上に回答しているものもみられた。そのため複数回答として集計した。また、「その他」の自由記述で多かったものについては、選択肢として追加した。

回答者数1,779名のうち、「民間賃貸住宅」に住んでいる者は785名（44.1%）と多く、「家族や親族と同居」が380名（21.4%）、「通勤寮・会社の寮」が206名（11.6%）と続いている【表9】。

男女ともに「民間賃貸住宅」に住んでいる者は多いが、性別による違いでは、男性は「通勤寮・会社の寮」で暮らしている者が15.7%と高く、女性は「家族や親族と同居」が24.3%と高い。

年齢別では、自らの家族をもつこともあり、「家族や親族と同居」が10代で15.8%、20代で20.0%、30代で46.0%と、年齢とともに高くなっている。「公営住宅」の利用も割合としては少ないが、10代で1.8%、20代で3.5%、30代で7.9%と徐々に高くなっている。一方、「学生寮」「通勤寮・会社の寮」「自立援助ホーム」「グループホーム」については、年齢とともに利用が少なくなる傾向がある【表10】。

表9 現在の住居

	回答数	%
家族や親族と同居	380	21.4
知人宅・友人宅	36	2.0
学生寮	39	2.2
通勤寮・会社の寮	206	11.6
自立援助ホーム	89	5.0
グループホーム	82	4.6
その他の福祉施設	12	0.7
公営住宅	60	3.4
民間賃貸住宅	785	44.1
その他	103	5.8
【複数回答】 N=1,779 N.A.=72		

表10 回答者の性別・年齢別による現在の住居（上段：人、下段：%）

		合計	現在の住居									
			家族や親族 と同居	知人宅・友 人宅	学生寮	通勤寮・会 社の寮	自立援助 ホーム	グループホー ム	その他の福 祉施設	公営住宅	民間賃貸 住宅	その他
性別	男性	822	129	10	22	129	44	34	3	30	355	42
		100.0	15.7	1.2	2.7	15.7	5.4	4.1	0.4	3.6	43.2	5.1
	女性	1008	245	26	16	77	44	47	8	29	423	59
		100.0	24.3	2.6	1.6	7.6	4.4	4.7	0.8	2.9	42.0	5.9
年齢	その他	4	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0
	10代	564	89	10	20	85	31	35	5	10	222	38
		100.0	15.8	1.8	3.5	15.1	5.5	6.2	0.9	1.8	39.4	6.7
年齢	20代	1158	232	26	18	118	55	45	6	40	523	61
		100.0	20.0	2.2	1.6	10.2	4.7	3.9	0.5	3.5	45.2	5.3
	30代以上	126	58	0	0	3	3	2	1	10	40	4
		100.0	46.0	0.0	0.0	2.4	2.4	1.6	0.8	7.9	31.7	3.2

同居している人についてたずねた項目については、回答者1,680名中「同居の家族はいない」と回答した者が1,061名（63.2%）と多い。他方、誰と同居しているのかについては、複数回答で「配偶者以外の親族」が280名（16.7%）、「配偶者」が276名（16.4%）と続いている【表11】。

性別による特徴では、「同居の家族はいない」者は女性が54.5%に対して男性は74.0%と高く、「配偶者」と暮らしている者は女性（22.5%）に多い。

年齢別では、「配偶者」や「配偶者以外の親族」と生活している者は年齢とともに増加し、特に30代以上で多くなっている。一方、「同居の家族はいない」者は、10代（73.6%）、20代（62.6%）では高いが、30代以上になると26.0%に減少する。

回答者の属性による特徴では、「同居の家族はいない」という回答は主婦を除いて全体的に構成比は高いが、なかでも無職においても71.9%と高くなっている【表12】。

表11 回答者が同居している人

	回答数	%
配偶者（パートナー）	276	16.4
配偶者以外の親族	280	16.7
友人・知人・恋人	43	2.6
同居の家族はいない	1,061	63.2
その他	85	5.1
【複数回答】 N=1,680 N.A.=171		

表12 回答者の性別・年齢別・属性別による同居者（上段：人、下段：%）

		合計	同居者				
			配偶者(パートナー)	配偶者以外の親族	友人・知人・恋人	同居の家族はいない	その他
性別	男性	742	68	98	8	549	31
		100.0	9.2	13.2	1.1	74.0	4.2
	女性	920	207	177	35	501	53
		100.0	22.5	19.2	3.8	54.5	5.8
その他	4	0	0	0	3	1	
	100.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	
年齢	10代	496	15	67	15	365	34
		100.0	3.0	13.5	3.0	73.6	6.9
	20代	1060	207	170	28	664	46
		100.0	19.5	16.0	2.6	62.6	4.3
	30代以上	123	54	42	0	32	5
		100.0	43.9	34.1	0.0	26.0	4.1
属性	勤労者	1143	156	171	36	749	65
		100.0	13.6	15.0	3.1	65.5	5.7
	主婦	110	98	35	1	4	0
		100.0	89.1	31.8	0.9	3.6	0.0
	学生	268	5	49	0	205	10
		100.0	1.9	18.3	0.0	76.5	3.7
無職	64	5	9	3	46	1	
	100.0	7.8	14.1	4.7	71.9	1.6	
その他	34	3	5	1	22	5	
	100.0	8.8	14.7	2.9	64.7	14.7	

2) 仕事について

①現在の仕事の状況と職種、雇用形態

回答者の現在の仕事については、1,487名（80.3%）と8割以上が働いている【表13】。「働いている」のは、性別では男性（85.1%）が、年齢別では20代（83.9%）が高くなっている【表14】が、これは主婦が女性と30代以上に多く、学生が10代に多いことが影響していると思われる【表5参照】。

属性による違いでは、勤労者であっても「働いていない」という回答が3.8%、無職であっても「働いている」という回答が8.7%見られる。これらは何らかの事情で現在は「働いていない」あるいは、表16にあるように、アルバイト就労や福祉的就労についている者が、属性においては「無職」と回答したと推察される。また、主婦の38.1%は働いており、学生も53.5%と半数以上が働いている【表14】。

表13 仕事の状況

	回答数	%
働いている	1,487	80.3
働いていない	357	19.3
無回答	7	0.4
合計	1,851	100.0

表14 性別・年齢別・属性別・施設との連絡状況による仕事の状況（上段：人、下段：%）

		合計	現在の仕事の状況	
			働いている	働いていない
性別	男性	819	697	122
		100.0	85.1	14.9
	女性	1005	777	228
		100.0	77.3	22.7
	その他	4	3	1
		100.0	75.0	25.0
年齢	10代	559	415	144
		100.0	74.2	25.8
	20代	1157	971	186
		100.0	83.9	16.1
	30代以上	126	99	27
		100.0	78.6	21.4
属性	勤労者	1251	1204	47
		100.0	96.2	3.8
	主婦	113	43	70
		100.0	38.1	61.9
	学生	297	159	138
		100.0	53.5	46.5
	無職	69	6	63
		100.0	8.7	91.3
	その他	37	13	24
		100.0	35.1	64.9

働いている場合の雇用形態については、複数の仕事に就いている場合もあり、複数回答で集計している。回答者1,450名中、正規雇用は718名（49.5%）と約半数にとどまり、「派遣・契約社員」「パート・アルバイト」といった不正規就労が646名（44.5%）となっている。福祉的就労についている者も22名（1.5%）存在する【表15】。

性別では正規雇用は男性が上回り（57.5%）、パート・アルバイト就労は女性に多い（44.2%）といった男女の就労格差が、ここにも反映されている。年齢では30代以上にパート・アルバイト就労が多く、属性別では、主婦の85.7%、学生の95.5%がパート・アルバイト就労で働いている【表16】。

表15 現在の仕事の雇用形態

	回答数	%
正規雇用（正社員）	718	49.5
派遣・契約社員	135	9.3
パート・アルバイト	511	35.2
自営業	34	2.3
福祉的就労	22	1.5
その他	37	2.6
【複数回答】 N=1,450 N.A.=37		

表16 性別・年齢・属性別による雇用形態（上段：人、下段：％）

		合計	雇用形態					
			正規雇用 （正社員）	派遣・契約 社員	パート・アル バイト	自営業	福祉的就 労	その他
性別	男性	678	390	69	171	25	10	16
		100.0	57.5	10.2	25.2	3.7	1.5	2.4
	女性	760	324	64	336	8	12	21
		100.0	42.6	8.4	44.2	1.1	1.6	2.8
その他	3	1	0	2	0	0	0	
	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	
年齢	10代	402	212	26	147	0	7	11
		100.0	52.7	6.5	36.6	0.0	1.7	2.7
	20代	951	477	97	321	23	14	24
		100.0	50.2	10.2	33.8	2.4	1.5	2.5
30代以上	95	29	11	43	11	1	2	
	100.0	30.5	11.6	45.3	11.6	1.1	2.1	
属性	勤労者	1174	683	118	298	31	18	30
		100.0	58.2	10.1	25.4	2.6	1.5	2.6
	主婦	42	4	2	36	2	0	0
		100.0	9.5	4.8	85.7	4.8	0.0	0.0
	学生	156	4	4	149	1	0	0
		100.0	2.6	2.6	95.5	0.6	0.0	0.0
	無職	6	1	0	2	0	1	2
		100.0	16.7	0.0	33.3	0.0	16.7	33.3
その他	13	1	0	6	0	3	3	
	100.0	7.7	0.0	46.2	0.0	23.1	23.1	

働いている仕事の業種については、回答者数1,451名中、複数回答で「商業・サービス業」が665名（45.8%）、「製造業」が272名（18.7%）、「医療・福祉」が185名（12.7%）、「建設業」が104名（7.2%）、「運輸・情報通信業」が100名（6.9%）と続いている【表17】。

性別では、男性は製造業（23.8%）や建設業（13.2%）が女性に比べて多く、女性は「商業・サービス業（55.0%）」で半数以上が働いている。属性の違いでは、主婦（62.3%）と学生（73.3%）における「商業・サービス業」の割合が高くなっている【表18】。表16で見たように、主婦や学生は、主に商業・サービス業におけるパート・アルバイト就労を行っている。

表17 現在の仕事の業種

	回答数	%
水産・農林業	21	1.4
建設業	104	7.2
製造業	272	18.7
電気・ガス業	20	1.4
運輸・情報通信業	100	6.9
商業・サービス業	665	45.8
金融・保険業	13	0.9
官公庁	11	0.8
医療・福祉	185	12.7
教育	27	1.9
その他	70	4.8
【複数回答】 N=1,451 N.A.=36		

表18 性別・属性別による仕事の業種（上段：人、下段：%）

		合計	業種										
			水産・農林業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業・サービス業	金融・保険業	官公庁	医療・福祉	教育	その他
性別	男性	684	15	90	166	15	67	243	2	9	50	10	29
		100.0	2.2	13.2	24.3	2.2	9.8	35.5	0.3	1.3	7.3	1.5	4.2
	女性	754	6	13	104	5	33	415	10	2	134	17	40
		100.0	0.8	1.7	13.8	0.7	4.4	55.0	1.3	0.3	17.8	2.3	5.3
性別	その他	3	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
属性	勤労者	1185	19	99	249	19	88	502	10	10	148	17	49
		100.0	1.6	8.4	21.0	1.6	7.4	42.4	0.8	0.8	12.5	1.4	4.1
	主婦	43	1	0	7	0	2	27	1	0	6	0	3
		100.0	2.3	0.0	16.3	0.0	4.7	62.8	2.3	0.0	14.0	0.0	7.0
	学生	146	0	0	1	0	5	107	0	1	19	9	12
		100.0	0.0	0.0	0.7	0.0	3.4	73.3	0.0	0.7	13.0	6.2	8.2
	無職	6	0	1	2	0	0	1	0	0	1	1	0
		100.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
その他	13	0	1	0	0	1	9	1	0	1	0	0	
	100.0	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	69.2	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	

②コロナ禍以前の月収

退所生の就労の現状を見てきたが、そこで得られる収入はどの程度であろうか。新型コロナウイルスが感染拡大する以前の平常時での月収（手取り）をたずねると、就労している回答者1,487名中、「10～20万円未満」が872名（58.5%）、「10万円未満」が343名（23.1%）、「20～30万円未満」が190名（12.8%）となっており、8割以上が20万円に満たない月収で生活している【表19】。

性別による違いでは、両者ともに「10～20万円未満」が6割前後と最も多いが、男性は「10万円未満（16.4%）」や「20～30万円未満（18.0%）」も2割弱いるのに対して、女性は「10万円未満（30.3%）」に集中している。年齢による違いでも、「10～20万円未満」を山としつつも、10代では「10万円未満（33.9%）」が多くなっている。属性による違いでは、主婦（65.1%）と学生（75.5%）において「10万円未満」が高くなっている【表20】。

表19 コロナ禍以前の月収（手取り）

	回答数	%
10万円未満	343	23.1
10-20万円未満	872	58.6
20-30万円未満	190	12.8
30万円以上	38	2.6
無回答	44	3.0
合計	1,487	100.0

表20 性別・年齢別・属性別・コロナ禍の減収の有無によるコロナ禍以前の月収
（上段：人、下段：%）

		合計	新型コロナ感染拡大前の月収（手取り）			
			10万円未満	10-20万円未満	20-30万円未満	30万円以上
性別	男性	676	111	414	122	29
		100.0	16.4	61.2	18.0	4.3
	女性	755	229	450	67	9
		100.0	30.3	59.6	8.9	1.2
その他	3	1	2	0	0	
	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0	
年齢	10代	401	136	249	16	0
		100.0	33.9	62.1	4.0	0.0
	20代	945	183	575	157	30
		100.0	19.4	60.8	16.6	3.2
	30代以上	96	24	47	17	8
		100.0	25.0	49.0	17.7	8.3
属性	勤労者	1171	161	791	181	38
		100.0	13.7	67.5	15.5	3.2
	主婦	43	28	13	2	0
		100.0	65.1	30.2	4.7	0.0
	学生	155	117	36	2	0
		100.0	75.5	23.2	1.3	0.0
	無職	6	5	1	0	0
		100.0	83.3	16.7	0.0	0.0
	その他	11	8	3	0	0
		100.0	72.7	27.3	0.0	0.0

月収別に仕事の雇用形態をみると、「10万円未満」ではパート・アルバイト（74.0%）が7割を超えており、「10～20万円未満」と「20～30万円未満」では正規雇用が6割を占めている。「30万円以上」になると、正規雇用（37.8%）と自営業（39.5%）が高くなっている【表21】。同様に月収別の仕事の業種をみると、商業・サービス業に就いている者は収入額が上がるにつれて構成割合も減っており、低収入で就労していることがわかる。特に「10万円未満」の商業・サービス業は64.5%と高くなっている【表22】。

表21 コロナ禍以前の月収別による現在の仕事の雇用形態（上段：人、下段：％）

		合計	雇用形態					
			正規雇用 (正社員)	派遣・契約 社員	パート・アル バイト	自営業	福祉的就 労	その他
新型コロナウイルス感染拡大前の月収（手取り）	10万円未満	335	30	14	248	3	18	26
		100.0	9.0	4.2	74.0	0.9	5.4	7.8
	10-20万円未満	861	541	93	219	4	1	5
		100.0	62.8	10.8	25.4	0.5	0.1	0.6
	20-30万円未満	186	123	22	31	12	0	0
		100.0	66.1	11.8	16.7	6.5	0.0	0.0
	30万円以上	38	14	3	3	15	0	3
		100.0	36.8	7.9	7.9	39.5	0.0	7.9

表22 コロナ禍以前の月収別による現在の仕事の業種（上段：人、下段：％）

		合計	業種										
			水産・農林 業	建設業	製造業	電気・ガス 業	運輸・情報 通信業	商業・サービ ス業	金融・保険 業	官公庁	医療・福祉	教育	その他
新型コロナウイルス感染拡大前の月収（手取り）	10万円未満	330	6	9	30	3	15	213	1	1	38	11	23
		100.0	1.8	2.7	9.1	0.9	4.5	64.5	0.3	0.3	11.5	3.3	7.0
	10-20万円未満	859	12	49	180	12	62	377	11	5	106	15	39
		100.0	1.4	5.7	21.0	1.4	7.2	43.9	1.3	0.6	12.3	1.7	4.5
	20-30万円未満	187	3	28	47	2	19	54	1	5	29	0	5
		100.0	1.6	15.0	25.1	1.1	10.2	28.9	0.5	2.7	15.5	0.0	2.7
	30万円以上	36	0	14	3	2	4	9	0	0	3	1	0
		100.0	0.0	38.9	8.3	5.6	11.1	25.0	0.0	0.0	8.3	2.8	0.0

③働いていない理由

現在の仕事について「働いていない」と回答した357名について、その理由を複数回答でたずねると、「学校に在学中」が116名（33.4%）、「家事・育児・妊娠・介護」が74名（21.3%）、「体調が悪い」が58名（16.7%）と、本人や家族による事情が7割を占める。他方、「コロナによる失業」「良い仕事がない」「求職・就活中」といった就労に関する困難さによるものも、合計すると89名（25.6%）に上っている【表23】。

性別では、男性が「学校に在学中（47.5%）」が多く、女性では「家事・育児・妊娠・介護（32.4%）」といった家族のケアのために働いていない場合が多い。

属性の違いによる特徴では、主婦は「家事・育児・妊娠・介護（84.3%）」のため、学生は「学校に在学中（83.0%）」のためという理由は自明であるが、無職の42.9%が体調不良のために働いていない。また、「コロナで仕事が無くなった」ために働けない者は、勤労者で34.7%、無職で19.0%、学生も13.3%となっている【表24】。

表23 働いていない理由

	回答数	％
家事・育児・妊娠・介護のため	74	21.3
学校に在学中だから	116	33.4
体調が悪いから	58	16.7
良い仕事がないから	32	9.2
新型コロナウイルスで仕事が無くなったから	49	14.1
求職・就活中	8	2.3
その他	53	15.3
【複数回答】 N=347 N.A.=10		

表24 性別・属性別による働いていない理由（上段：人、下段：％）

		合計	働いていない理由						
			家事・育児・妊娠・介護のため	学校に在学中だから	体調が悪いから	良い仕事がないから	新型コロナウイルスで仕事がなくなったから	求職・就活中	その他
性別	男性	120	1	57	21	12	17	0	22
		100.0	0.8	47.5	17.5	10.0	14.2	0.0	18.3
	女性	225	73	59	33	19	31	8	27
		100.0	32.4	26.2	14.7	8.4	13.8	3.6	12.0
その他	1	0	0	1	0	0	0	1	
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
属性	勤労者	49	6	0	10	5	17	3	13
		100.0	12.2	0.0	20.4	10.2	34.7	6.1	26.5
	主婦	70	59	2	4	5	1	0	7
		100.0	84.3	2.9	5.7	7.1	1.4	0.0	10.0
	学生	135	1	112	2	4	18	2	6
		100.0	0.7	83.0	1.5	3.0	13.3	1.5	4.4
	無職	63	5	1	27	11	12	3	15
100.0		7.9	1.6	42.9	17.5	19.0	4.8	23.8	
その他	22	2	0	10	6	0	0	9	
		100.0	9.1	0.0	45.5	27.3	0.0	0.0	40.9

3) 新型コロナの影響と相談相手

① コロナ禍による生活の変化

今回のコロナ禍は、退所生の生活にどのような影響をもたらしたのであろうか。生活状況の変化についてたずねると、1,851名中、「悪くなった」と回答した者が929名（50.2%）と半数を超え、「かわらない」は822名（44.4%）、そして「良くなった」が86名（4.6%）となっている【表25】。

性別による違いでは、「悪くなった」という回答において、男性（49.8%）に比べて女性（51.3%）が若干上回っているが、大きな差は見られない。年齢による違いにおいても、「良くなった」という回答が年齢とともに増加し、「かわらない」という回答は年齢とともに減少しているが、ある年代に特筆した特徴は見られない。しかし回答者の属性については、学生（63.9%）と無職（58.8%）において「悪くなった」と回答する者が6割前後と高くなっている。現在の仕事の有無においても、生活が「悪くなった」という回答は、働いていない者（58.4%）が、働いている者（48.8%）を上回っている【表26】。

表25 新型コロナによる生活の変化

	回答数	％
良くなった	86	4.6
かわらない	822	44.4
悪くなった	929	50.2
無回答	14	0.8
合計	1,851	100.0

表26 性別・年齢別・属性別・仕事の状況別による新型コロナでの生活の変化
(上段：人、下段：%)

		合計	新型コロナでの生活の変化		
			良くなった	かわらない	悪くなった
性別	男性	822	37	376	409
		100.0	4.5	45.7	49.8
	女性	995	47	438	510
		100.0	4.7	44.0	51.3
	その他	4	1	0	3
		100.0	25.0	0.0	75.0
年齢	10代	557	22	270	265
		100.0	3.9	48.5	47.6
	20代	1154	52	502	600
		100.0	4.5	43.5	52.0
	30代以上	124	12	49	63
		100.0	9.7	39.5	50.8
属性	勤労者	1244	57	593	594
		100.0	4.6	47.7	47.7
	主婦	113	8	46	59
		100.0	7.1	40.7	52.2
	学生	299	11	97	191
		100.0	3.7	32.4	63.9
	無職	68	2	26	40
		100.0	2.9	38.2	58.8
	その他	36	2	17	17
		100.0	5.6	47.2	47.2
現在の仕事の状況	働いている	1479	71	686	722
		100.0	4.8	46.4	48.8
	働いていない	353	15	132	206
		100.0	4.2	37.4	58.4

コロナ禍による生活の変化で、「悪くなった」という回答者の雇用形態をみると、パート・アルバイト（41.6%）と正規雇用（41.5%）において高くなっている【表27】。同様に生活が「悪くなった」という回答者の業種については、商業・サービス業が53.1%と高く、次いで製造業が18.0%となっている【表28】。

表27 コロナ禍での生活の変化による雇用形態（上段：人、下段：%）

		合計	雇用形態					
			正規雇用 (正社員)	派遣・契約 社員	パート・アル バイト	自営業	福祉的就 労	その他
新型コロナでの生活の変化	良くなった	70	34	3	28	0	3	3
		100.0	48.6	4.3	40.0	0.0	4.3	4.3
	かわらない	666	388	59	187	8	10	16
		100.0	58.3	8.9	28.1	1.2	1.5	2.4
	悪くなった	706	293	72	294	26	8	18
		100.0	41.5	10.2	41.6	3.7	1.1	2.5

表28 コロナ禍での生活の変化による現在の仕事の業種（上段：人、下段：％）

		合計	業種										
			水産・農林業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業・サービス業	金融・保険業	官公庁	医療・福祉	教育	その他
新型コロナでの生活の変化	良くなった	69	3	3	11	1	4	32	0	1	10	1	4
		100.0	4.3	4.3	15.9	1.4	5.8	46.4	0.0	1.4	14.5	1.4	5.8
	かわらない	673	7	49	133	10	53	258	8	5	116	10	31
		100.0	1.0	7.3	19.8	1.5	7.9	38.3	1.2	0.7	17.2	1.5	4.6
	悪くなった	701	10	51	126	8	41	372	4	4	57	13	34
		100.0	1.4	7.3	18.0	1.1	5.8	53.1	0.6	0.6	8.1	1.9	4.9

②コロナ禍による収入の減少

◆コロナ禍による減収

コロナ禍による生活への影響について、収入の減少について見ていく。現在、「働いている」と回答した1,487名中、873名（58.7％）はコロナ禍によっても収入は減らなかったと回答し、558名（37.5％）は減収したと回答している【表29】。

「収入が減った」と回答した者について、性別による違いは見られず、年齢別では20代において42.6％と、やや高くなっている。属性による違いでは、学生（58.3％）において高くなっている。また、日ごろの月収の違いでは、20万円以上では5割を超える者が減収したと回答し、10万円未満も42.3％が減収している【表30】。

コロナ禍による減収と現在の仕事の雇用形態をみると、「パート・アルバイト」は減収した者の中でも47.7％を占め最も高い。一方、「正規雇用」は、減収しなかった者の中で58.5％を占め、コロナ禍においても相対的に安定している【表31】。同様に現在の仕事の業種についてみると、「商業・サービス業」が減収した中での構成比が58.6％を占めて高く、「製造業（17.1％）」が続いている。【表32】。

表29 コロナ禍による減収

	回答数	％
減った	558	37.5
減らない	873	58.7
無回答	56	3.8
合計	1,487	100.0

表30 年齢別・属性別・コロナ禍前の月収の違いによる収入の減少（上段：人、下段：％）

		合計	新型コロナによる減収	
			減った	減らない
性別	男性	669	263	406
		100.0	39.3	60.7
	女性	751	289	462
		100.0	38.5	61.5
その他	3	1	2	
	100.0	33.3	66.7	
年齢	10代	393	123	270
		100.0	31.3	68.7
	20代	942	401	541
		100.0	42.6	57.4
30代以上	96	34	62	
	100.0	35.4	64.6	
属性	勤労者	1159	424	735
		100.0	36.6	63.4
	主婦	42	17	25
		100.0	40.5	59.5
	学生	156	91	65
		100.0	58.3	41.7
無職	6	4	2	
	100.0	66.7	33.3	
その他	13	8	5	
	100.0	61.5	38.5	
新型コロナ感染拡大前の月収（手取り）	10万円未満	336	142	194
		100.0	42.3	57.7
	10-20万円未満	854	296	558
		100.0	34.7	65.3
	20-30万円未満	186	94	92
		100.0	50.5	49.5
30万円以上	37	20	17	
	100.0	54.1	45.9	

表31 コロナ禍の減収の有無による仕事の雇用形態（上段：人、下段：％）

		合計	雇用形態					
			正規雇用 （正社員）	派遣・契約 社員	パート・アル バイト	自営業	福祉的就 労	その他
新型コロナによる 減収	減った	553	196	56	264	24	6	10
		100.0	35.4	10.1	47.7	4.3	1.1	1.8
	減らない	855	500	76	235	9	14	26
		100.0	58.5	8.9	27.5	1.1	1.6	3.0

表32 コロナ禍による減収の有無と現在の仕事の業種（上段：人、下段：％）

		合計	業種										
			水産・農林 業	建設業	製造業	電気・ガス 業	運輸・情報 通信業	商業・サービ ス業	金融・保険 業	官公庁	医療・福祉	教育	その他
新型コロナによる 減収	減った	539	5	41	92	4	31	316	3	2	24	9	24
		100.0	0.9	7.6	17.1	0.7	5.8	58.6	0.6	0.4	4.5	1.7	4.5
	減らない	861	15	54	168	14	65	334	8	8	154	14	42
		100.0	1.7	6.3	19.5	1.6	7.5	38.8	0.9	0.9	17.9	1.6	4.9

◆コロナ禍による減収の割合

コロナ禍によって減収したと回答した558名について、その減収された程度をたずねると、「2～4割未満」減少したという者が156名（28.0%）、「4～6割未満」が119名（21.3%）、「2割未満」が107名（19.2%）と続く。「6割以上」も減収したという者も

73名（13.1%）と1割を超えている【表33】。

性別では、男性は、2～4割未満の減収（34.1%）を山として2割未満（29.6%）と4～6割未満（22.1%）の減収が続いている。一方、女性は、男性同様に2～4割未満の減収（34.2%）を山としつつも、4～6割未満（30.7%）、6割以上（18.2%）と続き、男性よりも多く減収されている者が多い。

年齢別では、年代が若くなるほどに、より多く減収されている傾向があり、10代では「2割未満」～「6割以上」までの全ての選択肢で2割を超え、「6割以上」の減収も20.6%と高くなっている。

属性による違いでは、学生において4～6割未満の減収が41.7%、6割以上の減収も31.0%と深刻である。日ごろの手取り収入の違いでは、月収10万円未満の層と、月収20万円以上の層において、減収が6割以上であった者が2割を超えている【表34】。

表33 コロナ禍による減収した割合

	回答数	%
2割未満	107	19.2
2-4割未満	156	28.0
4-6割未満	119	21.3
6割以上	73	13.1
無回答	103	18.5
合計	558	100.0

表34 性別・年齢別・属性別・コロナ禍前の月収の違いによる減収割合（上段：人、下段：％）

		合計	減収割合			
			2割未満	2-4割未満	4-6割未満	6割以上
性別	男性	226	67	77	50	32
		100.0	29.6	34.1	22.1	14.2
	女性	225	38	77	69	41
		100.0	16.9	34.2	30.7	18.2
	その他	1	0	1	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
年齢	10代	97	25	26	26	20
		100.0	25.8	26.8	26.8	20.6
	20代	331	76	117	87	51
		100.0	23.0	35.3	26.3	15.4
	30代以上	27	6	13	6	2
		100.0	22.2	48.1	22.2	7.4
属性	勤労者	341	96	124	77	44
		100.0	28.2	36.4	22.6	12.9
	主婦	12	1	8	3	0
		100.0	8.3	66.7	25.0	0.0
	学生	84	4	19	35	26
		100.0	4.8	22.6	41.7	31.0
	無職	3	1	0	1	1
		100.0	33.3	0.0	33.3	33.3
	その他	3	0	0	1	2
		100.0	0.0	0.0	33.3	66.7
新型コロナウイルス感染拡大前の月収（手取り）	10万円未満	115	11	35	45	24
		100.0	9.6	30.4	39.1	20.9
	10-20万円未満	243	76	94	46	27
		100.0	31.3	38.7	18.9	11.1
	20-30万円未満	78	18	23	21	16
		100.0	23.1	29.5	26.9	20.5
	30万円以上	17	2	4	6	5
		100.0	11.8	23.5	35.3	29.4

③現在、困っていること

◆困っている内容

現在、困っていることを複数回答でたずねると、回答者1,345名中、構成比の高い順に、「生活全般の不安や将来の不安（39.9%）」「現在の仕事（25.1%）」「衣食等の費用（23.7%）」「心身の健康問題（20.8%）」「就職・職探し（20.5%）」「家賃等の住居費（16.7%）」「家族・親族（16.7%）」となっている【表35】。

全体的な傾向は同じであるが、性別による違いがみられるものは、現在の仕事についての困りごとは、男性（29.8%）が女性（21.9%）よりも上回っており、他は「生活全般の不安（男性：36.1%、女性：42.6%）」「心身の健康問題（男性：17.9%、女性：22.7%）」「家族・親族（男性：13.6%、女性：19.2%）」など、女性において上回っている項目が多い。

年齢による違いでは、20代で現在の仕事（27.6%）に関して困っている者、30代では健康問題（26.7%）や子育て・妊娠（24.4%）、家族・親族（22.1%）に関する困りごとが相対的に高い。

属性による違いでは、勤労者では現在の仕事（33.7%）に関して、主婦では子育て・妊娠（49.4%）や家族・親族（33.7%）に関して、学生では学費や学校のこと（36.9%）や就職（30.6%）に関して困難を抱えている。そして無職では、就職（59.7%）や生活全般の不安（51.6%）、健康問題（51.6%）について5割を超え、孤立・孤独感（35.5%）

に関する困難も相対的に高くなっている。

現在の就労状況の違いにおいても、「働いていない」者は、生活全般の不安（48.8%）、就職（42.7%）、健康問題（29.5%）、孤立や孤独（20.7%）、そして子育て・妊娠（11.5%）において、高くなっている。

コロナ禍による減収の有無では、月収が減った者は、生活全般の不安（43.6%）や現在の仕事（31.9%）の悩みを抱えるとともに、衣食等の費用（34.7%）、家賃などの住居費（30.1%）といった支払いの困難さに直面し、就職（20.1%）や学費・学校のこと（10.8%）についても、高い割合を示している【表36】。

表35 現在困っていること

	回答数	%
家族・親族	225	16.7
子育て・妊娠	87	6.5
現在の仕事	338	25.1
職場の人間関係	173	12.9
就職（職探し）	276	20.5
異性関係	60	4.5
家事	170	12.6
住居探し	77	5.7
衣食等の費用	319	23.7
自分の学費や学校のこと	111	8.3
家賃等の住居費	225	16.7
消費者金融やクレジット等の借金	79	5.9
その他お金のこと	9	0.7
孤立や孤独感	195	14.5
心身の健康問題	280	20.8
新型コロナ関係	2	0.1
生活全般の不安や将来の不安	537	39.9
その他	21	1.6
【複数回答】 N=1,345 N=506		

表36 性別・年齢別・属性別・仕事の状況・コロナ禍による減収別にみた困っていること
(上段：人、下段：%)

		合計	家族・親族	子育て・妊産	現在の仕事	職場の人間関係	就職(職探し)	異性関係	家事	住居探し	衣食等の費用	自分の学費や学校のこ	家賃等の住居費	消費者金融やクレジット等の借金	その他お金のこと	孤立や孤独感	心身の健康問題	新型コロナ関係	生活全般の不安や将来の不安	その他
性別	男性	574	7.8	12	17.1	7.1	11.7	3.1	7.9	2.8	13.2	5.1	9.6	3.3	5	8.2	10.3	1	20.7	8
	女性	100.0	13.6	2.1	29.8	12.4	20.4	5.4	13.8	4.9	23.0	8.9	16.7	5.7	0.9	14.3	17.9	0.2	36.1	1.4
	その他	754	14.5	7.5	16.5	10.1	15.6	2.9	9.0	4.7	18.4	5.9	12.5	4.5	4	10.9	17.1	0.1	32.1	1.2
年齢	10代	100.0	19.2	9.9	21.9	13.4	20.7	3.8	11.9	6.2	24.4	7.8	16.6	6.0	0.5	14.5	22.7	0.1	42.6	1.6
	20代	4	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	2	2	0	2	1
	30代以上	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	25.0
	10代	410	6.3	4	8.3	6.1	8.2	1.8	6.7	3.0	10.4	5.7	5.5	9	4	6.8	8.7	0	15.6	8
属性	勤労者	100.0	15.4	1.0	20.2	14.5	20.0	4.4	16.3	7.3	25.4	13.9	13.4	2.2	1.0	16.6	21.2	0.0	38.0	2.0
	主婦	847	14.3	6.2	23.4	10.1	17.7	4.1	9.4	4.5	19.6	5.4	15.7	6.3	5	11.5	16.9	2	34.4	10
	学生	100.0	16.9	7.3	27.6	11.9	20.9	4.8	11.1	5.3	23.1	6.4	18.5	7.4	0.6	13.6	20.0	0.2	40.6	1.2
	無職	86	1.9	2.1	2.1	1.1	1.7	1	9	2	1.9	0	1.3	7	0	1.1	2.3	0	3.6	3
	その他	100.0	22.1	24.4	24.4	12.8	19.8	1.2	10.5	2.3	22.1	0.0	15.1	8.1	0.0	12.8	26.7	0.0	41.9	3.5
現在の仕事の状況	働いている	864	14.1	3.9	29.1	14.2	11.5	3.9	10.4	5.3	19.9	1.4	14.9	5.8	6	10.9	15.3	1	31.4	1.4
	働いていない	100.0	16.3	4.5	33.7	16.4	13.3	4.5	12.0	6.1	23.0	1.6	17.2	6.7	0.7	12.6	17.7	0.1	36.3	1.6
	働いていない	83	2.8	4.1	9	3	1.8	0	1.2	5	2.1	2	1.1	9	0	6	1.8	0	3.0	0
	働いていない	100.0	33.7	49.4	10.8	3.6	21.7	0.0	14.5	6.0	25.3	2.4	13.3	10.8	0.0	7.2	21.7	0.0	36.1	0.0
	働いていない	252	2.8	1	2.1	10	7.7	1.1	3.6	8	7.1	9.3	4.3	6	3	4.6	5.4	0	12.1	3
	働いていない	100.0	11.1	0.4	8.3	4.0	30.6	4.4	14.3	3.2	28.2	36.9	17.1	2.4	1.2	18.3	21.4	0.0	48.0	1.2
新型コロナによる減収	減った	62	1.2	2	8	2	3.7	5	12	5	1.1	0	1.1	4	0	2.2	3.2	0	3.2	2
	減らない	100.0	19.4	3.2	12.9	3.2	59.7	8.1	19.4	8.1	17.7	0.0	17.7	6.5	0.0	35.5	51.6	0.0	51.6	3.2
現在の仕事の状況	働いている	30	8	1	2	3	1.8	1	3	5	6	1	5	1	0	7	1.3	1	15	1
	働いていない	100.0	26.7	3.3	6.7	10.0	60.0	3.3	10.0	16.7	20.0	3.3	16.7	3.3	0.0	23.3	43.3	3.3	50.0	3.3
新型コロナによる減収	減った	1050	17.6	5.1	29.9	16.4	15.0	4.5	12.9	5.7	24.2	6.8	17.5	6.0	7	13.4	19.3	1	39.9	1.7
	減らない	100.0	16.8	5.0	28.5	15.6	14.3	4.3	12.3	5.4	23.0	6.5	16.7	5.7	0.7	12.8	18.4	0.1	37.4	1.6
現在の仕事の状況	働いていない	295	4.9	3.4	3.9	9	12.6	1.5	4.1	20	7.7	4.3	50	1.9	2	6.1	8.7	1	14.4	4
	働いていない	100.0	16.6	11.5	13.2	3.1	42.7	5.1	13.9	6.8	26.1	14.6	16.9	6.4	0.7	20.7	29.5	0.3	48.8	1.4
新型コロナによる減収	減った	452	6.8	2.1	14.4	4.1	9.1	1.6	4.1	3.3	15.7	4.9	13.6	3.3	4	4.8	7.5	0	19.7	6
	減らない	100.0	15.0	4.6	31.9	9.1	20.1	3.5	9.1	7.3	34.7	10.8	30.1	7.3	0.9	10.6	16.6	0.0	43.6	1.3
現在の仕事の状況	働いていない	556	10.4	3.0	14.3	11.0	5.8	2.5	7.9	20	7.7	1.8	3.5	2.6	3	8.1	11.0	1	18.5	1.1
	働いていない	100.0	18.7	5.4	25.7	19.8	10.4	4.5	14.2	3.6	13.8	3.2	6.3	4.7	0.5	14.6	19.8	0.2	33.3	2.0

◆新型コロナによる具体的な困りごと（自由記述）

現在困っていることについては、自由記述欄を設けて具体的に聞いている。記述では、具体的な内容とともに、表35を回答した理由や背景についても記されていた。さらに、調査実施時期はマスク等のコロナ対策の商品が品薄だったこともあり、マスク不足に関する記述も見られた。全般的に、金銭的な不足と仕事の不安が精神的・身体的なダメージとともに記されていた。

以下に、いくつか紹介するが、学生からは学業と仕事との兼ね合いや学費の問題が挙げられている。さらに、元学生だった者からは、学校を終えた後にも、奨学金の返済を負いながらの就労に困窮している声が出ていた。

「コロナで仕事が減り、給料が減った。専門学校もあり途中で仕事をぬけて学校に行くが、その分給料から天引きされる。」

「あらたにアルバイトを増やして生計を立てています。睡眠時間が足りないのと、学業に戻りたく受験費用、入学金、学費も貯めないといけないので大変です。」

「残業が減り収入減で奨学金の返済に困っています。」

なかには、次のような深刻な記述も見られた。

「ちゃんとした体温計がないから、子どもが熱があるかどうかわからない。」

「障害児がいますが、デイサービスも時間短縮であり、助かってはいるが、短いので仕事に影響が出てしまっている。家にいる時間が多くなり、病院や訓練にも行けず、きょうだいのケンカやストレスは多くなっていった。」

「月のお給料が半分以下になった。たまに、このまま死ぬんじゃないかと不安になった。」

「コロナの影響で働いていた風俗・ピンクサロンが営業時間短縮し、夜の時間でシフトに入っていた私は店を休まざるをえなくなった。そのため食費を節約していたら、摂食障害再発と思われる症状がいくつもあらわれ体調を崩した。緊急事態宣言が解除され週末だけ仕事を再開することができているが、体重の減少が止まらない。」

「コロナの影響で売り上げがのびず 8月23日で閉店。8月24日から職がなく、どうなるか不安」

「毎日満席になるような飲食店で働き、人の多い電車にのり、かなりリスクがありますが、働かなくては不安な現状。万が一のときに頼れる親や実家がないため。」

「コロナが蔓延するなか唯一の親族であった父親が亡くなりました。しかし、現在の施設での感染を防止する目的で、葬儀等へは行けませんでした。・・・父の墓参りだって行きたい、ですが誰の後ろ盾もない今、誰を頼って自立を試みれば良いのでしょうか。私一人の力では、何も変わりません。どうすることもできません。帰る家さえなくなったのです。」

「面接・求人応募をいくらやっても仕事につけない。無駄に時間だけが過ぎる。お金が底をつく。現状を打破しようと動くエネルギーがなくなる。」

③困りごとの相談相手

こうした困りごとに対して相談できる相手の存在は重要である。アンケートにおいては複数回答でたずねているが、回答者数1,779名中、「施設の職員」が926名（52.1%）」と最も高く、「施設の元職員」の177名（9.9%）も合わせると62.0%が退所した施設職員に相談している。また、学校や施設での友人や先輩・恋人も合計すると1,236名（69.5%）と7割近く、同世代の相談相手となっている。職場や学校の上司や先生については、合計しても708名（39.8%）と4割弱であり、やはり退所生にとっては、施設職員や同世代の友人たちが重要な相談相手となっている。ただし、この退所生と施設との関係の強さは、本調査の手続きによるバイアスがある点に注意が必要である。回答者は施設を通して本プロジェクトに繋がった退所生であり、表6からも9割以上が施設と連絡を取っていることからしても児童養護施設の退所生全体像を反映しているわけではない。

一方、配偶者や親・親戚が相談相手であるという者は合計して771名（43.4%）おり、反対に「相談できる人は誰もいない」という者も94名（5.3%）いる【表37】。

以下では、施設の職員と元職員（以下、この両者を合わせて施設職員とする）に相談をしている者の特徴をみていく【表38】。性別では女性（63.6%）が、年齢別では10代（66.0%）と20代（61.6%）が、属性別では学生（67.1%）と無職（79.1%）が、現在の就労状況では「働いていない」者（70.7%）が、そして日頃の月収では「10万円未満」の者（69.3%）が、6割を超えて施設職員に相談している。

表37 困ったことを相談する相手

	回答数	%
配偶者（パートナー）	284	16.0
親（保護者）・その他の親族	487	27.4
学校の友人・先輩	388	21.8
施設の友人・先輩	373	21.0
その他の友人・先輩・恋人	475	26.7
職場の上司	259	14.6
職場の同僚・先輩	353	19.8
現在通う学校の先生	43	2.4
以前通った学校の先生	53	3.0
施設出身者等のための相談支援機関	71	4.0
福祉事務所等の職員	107	6.0
施設の職員	926	52.1
施設の元職員	177	9.9
その他の専門職	31	1.7
その他	39	2.2
相談できる人はいない	94	5.3
【複数回答】 N = 1,779 N.A. = 72		

表38 性別・年齢別・属性別・仕事の状況別・コロナ禍以前の月収別による相談相手

(上段：人、下段：%)

		合計	困ったとき相談する相手															
			配偶者 (パート ナ)	親(保護 者)・その 他の親族	学校の友 人・先輩	施設の友 人・先輩	その他の友 人・先輩・ 恋人	職場の上 司	職場の同 僚・先輩	現在通う学 校の先生	以前通った 学校の先生	施設出身 者等のため の相談支援 機関	福祉事務 所等の職員	施設の職員	施設の元職 員	その他の専 門職	その他	相談できる 人はいない
性別	男性	789	76	206	193	165	176	132	166	20	19	34	44	406	66	10	15	51
	100.0	9.6	26.1	24.5	20.9	22.3	16.7	21.0	2.5	2.4	4.3	5.6	51.5	8.4	1.3	1.9	6.5	
	女性	971	207	280	191	203	295	124	182	22	33	37	61	509	109	21	22	39
100.0	21.3	28.8	19.7	20.9	30.4	12.8	18.7	2.3	3.4	3.8	6.3	52.4	11.2	2.2	2.3	4.0		
その他	4	0	0	2	1	3	2	2	0	1	0	1	4	2	0	1	0	
100.0	0.0	0.0	50.0	25.0	75.0	50.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	100.0	50.0	0.0	25.0	0.0		
年齢	10代	535	20	153	172	114	125	80	91	26	24	24	30	296	57	9	13	22
	100.0	3.7	28.6	32.1	23.3	23.4	15.0	17.0	4.9	4.5	4.5	5.6	55.3	10.7	1.7	2.4	4.1	
	20代	1118	218	291	204	238	311	162	237	15	26	45	66	579	110	18	24	65
	100.0	19.5	26.0	18.2	21.3	27.8	14.5	21.2	1.3	2.3	4.0	5.9	51.8	9.8	1.6	2.1	5.8	
30代以上	124	46	43	11	20	39	17	25	1	3	2	11	49	10	4	2	7	
100.0	37.1	34.7	8.9	16.1	31.5	13.7	20.2	0.8	2.4	1.6	8.9	39.5	8.1	3.2	1.6	5.6		
属性	勤労者	1201	175	326	202	249	346	234	309	1	39	51	59	603	114	11	28	66
	100.0	14.6	27.1	16.8	20.7	28.8	19.5	25.7	0.1	3.2	4.2	4.9	50.2	9.5	0.9	2.3	5.5	
	主婦	111	80	42	16	23	30	4	7	1	0	0	5	46	11	6	1	6
	100.0	72.1	37.8	14.4	20.7	27.0	3.6	6.3	0.9	0.0	0.0	4.5	41.4	9.9	5.4	0.9	5.4	
	学生	297	11	84	148	70	64	5	18	37	10	12	9	171	29	3	2	12
	100.0	3.7	28.3	49.8	23.6	21.5	1.7	6.1	12.5	3.4	4.0	3.0	57.6	9.8	1.0	0.7	4.0	
	無職	67	6	14	8	14	15	2	3	1	0	4	17	42	11	7	4	5
100.0	9.0	20.9	11.9	20.9	22.4	3.0	4.5	1.5	0.0	6.0	25.4	62.7	16.4	10.4	6.0	7.5		
その他	34	3	5	5	5	6	5	2	0	3	4	8	21	5	2	2	3	
100.0	8.8	14.7	14.7	14.7	17.6	14.7	5.9	2.0	8.8	11.8	23.5	61.8	14.7	5.9	5.9	8.8		
現在の仕事の状況	働いている	1430	214	380	296	299	400	257	345	24	47	55	76	726	131	12	29	77
	100.0	15.0	26.6	20.7	20.9	28.0	18.0	24.1	1.7	3.3	3.8	5.3	50.8	9.2	0.8	2.0	5.4	
働いていない	345	70	106	90	74	75	2	8	19	6	16	31	198	46	19	10	17	
100.0	20.3	30.7	26.1	21.4	21.7	0.6	2.3	5.5	1.7	4.6	9.0	57.4	13.3	5.5	2.9	4.9		
新型コロナ感染拡大前の月収(手取り)	10万円未満	336	54	83	86	70	84	45	41	19	14	15	36	197	36	8	6	14
	100.0	16.1	24.7	25.6	20.8	25.0	13.4	12.2	5.7	4.2	4.5	10.7	58.6	10.7	2.4	1.8	4.2	
	10-20万円未満	841	106	230	168	167	235	170	244	4	26	33	32	423	69	4	14	44
	100.0	12.6	27.3	20.0	19.9	27.9	20.2	29.0	0.5	3.1	3.9	3.8	50.3	8.2	0.5	1.7	5.2	
	20-30万円未満	183	33	50	24	45	62	36	50	0	3	3	5	75	20	0	7	16
	100.0	18.0	27.3	13.1	24.6	33.9	19.7	27.3	0.0	1.6	1.6	2.7	41.0	10.9	0.0	3.8	8.7	
30万円以上	37	16	5	7	11	11	2	6	0	0	1	1	15	2	0	1	3	
100.0	43.2	13.5	18.9	29.7	29.7	5.4	16.2	0.0	0.0	2.7	2.7	40.5	5.4	0.0	2.7	8.1		

4) 支援の状況と今後の要望

① 公的支援の利用状況

アンケート調査時に受けている公的支援の利用状況についてみる。回答者1,741名中、複数回答で、「国からのマスク」が1,510名(86.7%)、「特別定額給付金」が1,350名(77.5%)と、この2つの支援以外は1割にも満たない状況である【表39】。

性別や年齢による差異は見られないが、属性の違いにおいては、学生では「学生支援緊急給付金」の利用が45.0%と高く、無職では生活保護の受給が42.6%と高くなっている。

表39 現在受けている公的支援

	回答数	%
国からのマスク2枚	1,510	86.7
国の「特別定額給付金」	1,350	77.5
学生支援機構の「学生支援緊急給付金」	140	8.0
社会福祉協議会の「緊急小口資金・総合支援金（無利子の貸付）」	40	2.3
生活保護	124	7.1
障害年金	14	0.8
その他	45	2.6
【複数回答】N=1,741 N.A.=110		

国からのマスクが届いた月は、6月（64.8%）と5月（24.6%）に集中している【表40】。特別定額給付金についても、6月（63.3%）が多く、7月までに9割以上が配布されている【表41】。

表40 マスクが届いた月

	回答数	%
1月	1	0.1
2月	3	0.2
3月	5	0.3
4月	39	2.6
5月	371	24.6
6月	978	64.8
7月	57	3.8
N.A.	56	3.7
合計	1,510	100.0

表41 国の「特別定額給付金」を受給した月

	回答数	%
4月	6	0.4
5月	168	12.4
6月	855	63.3
7月	225	16.7
8月	5	0.4
9月	0	0.0
10月	2	0.1
N.A.	89	6.6
合計	1,350	100.0

②今後、希望する支援

「今後もコロナの影響が続く中で、どのような支援を希望するか」についてたずねた。回答者数1,599名中、複数回答で「資金的な支援」を希望する者が1,206名（75.4%）と最も多く、次いで「物品の支給」が790名（49.4%）となっている。これらの支援は、生活を営んでいく上で、衣食住のような必須となるものが不足しているために希望している。これまでの調査結果をみても、もとより不安定な退所生たちの生活がコロナの影響で、より逼迫していることが背景にあった。他にも、「仕事に関する支援（14.2%）」や「相談・支援情報の提供（12.1%）」について希望しているが、先に概観した困りごと【表35参照】において、就職や生活の不安といった困難さが述べられており、その対応として求められている支援である【表42】。

年齢による違いでは、「資金的な支援」が10代で77.1%、20代で75.1%と、若い年齢層で高くなっているが、これも若い年齢層では日頃の月収が低い【表20参照】ことが背景にある。「子育てや家事の支援」は家族をもつようになる20代以降、特に30代以上で26.4%と高くなる。

属性の違いでは、「資金的な支援」はいずれも7割を超えているが、なかでも学生は、「資金的支援（78.4%）」と「物品支援（53.0%）」について、他の属性よりも多く希望している。一方、主婦は「子育て・家事支援（46.7%）」について、無職の者は「仕事の相談（38.5%）」と「相談・支援情報の提供（15.4%）」について希望する構成割合が高い。

表42 今後、希望する支援

	回答数	%
資金的な支援	1,206	75.4
物品の支援	790	49.4
仕事に関する支援	227	14.2
子育てや家事の支援	142	8.9
相談や支援情報の提供	193	12.1
その他	17	1.1

【複数回答】 N = 1,599 N.A. = 252

表43 年齢別・属性の違いによる希望する支援（上段：人、下段：%）

		合計	今後、希望する支援					
			資金的な支援	物品の支援	仕事に関する支援	子育てや家事の支援	相談や支援情報の提供	その他
年齢	10代	480	370	232	58	18	49	5
		100.0	77.1	48.3	12.1	3.8	10.2	1.0
	20代	1011	762	513	147	96	128	11
		100.0	75.4	50.7	14.5	9.5	12.7	1.1
	30代以上	106	73	44	21	28	15	1
		100.0	68.9	41.5	19.8	26.4	14.2	0.9
属性	勤労者	1056	788	509	143	75	115	8
		100.0	74.6	48.2	13.5	7.1	10.9	0.8
	主婦	107	83	53	11	50	12	2
		100.0	77.6	49.5	10.3	46.7	11.2	1.9
	学生	283	222	150	31	8	38	3
		100.0	78.4	53.0	11.0	2.8	13.4	1.1
	無職	65	47	32	25	4	10	3
		100.0	72.3	49.2	38.5	6.2	15.4	4.6
	その他	32	25	22	11	3	10	0
		100.0	78.1	68.8	34.4	9.4	31.3	0.0

③その他（自由記述）

最後の「その他」として設けられた自由記述には、ひとり親や学生、勤労者など、それぞれの立場から今回のプロジェクトに関するお礼が多く記されていた。

「もうすぐ子どもも増える所だったので、とっても嬉しかったです。」

「最近コロナで、よくも悪くも一人親に対してたくさんの方が目を向けてくれるようになりました。今までは肩身が狭い思いをしていたことが、こういった支援で生活に希望をもって自信をもって子どもと向き合えます。」

「私は将来に向けて考えていく中で他人と比べて劣等感を抱いてしまうことが多々ありました。たくさんの方々を支えていただき、なんとか進学することができました。全国には進学をあきらめ就職した子も多いと思います。そんな子供たちが少しでもいなくなるように自分自身も何か力になりたいです。今は学生で夢に向かって

いる途中ですが、いつかは立派な大人になって何か力になれたらと思っています。とにかく今は夢に向かって頑張ります。」

「支援ありがとうございます。段ボールの中身も勿論ですが、愛を感じとても嬉しいです。今社会人として働いていますが施設にいたということを誰にも明かしていないので（職場で）困ったときに頼れる人がいませんでした。ですが今回この支援で私は一人じゃないんだと実感しました。

「退所生にも、色々と気を配って頂きありがとうございます。施設にいた頃にたくさん迷惑をかけたので、退所してからはあまり関わらない方がいいのかな？と思っていましたが、先生方が時々連絡をくれて娘の様子を見に来てくれます。忙しい中いつも感謝しています。恩返しとして、娘を立派に育てて見せます。ありがとうございました。」

さらに、現在、施設にいる子どもたちへの思いや、社会の在り方に対する記述も見られた。

「わたしたち施設出身者は、ある程度大人なので、そこそこ大丈夫です。ぜひ今いる施設の子どもたちに寄り添って、支えてあげてください。どんな子どもでも、心の支援は必要だと感じています。これからも陰ながら応援しています。」

「・・・被害体験にあい、トラウマを抱える人、困っている人ほど『助けて』とSOSが出せません。SOSが出しやすい社会になりますように。」

「・・・親だけが子どもを見るのではなく、その地域近隣で、みんなで子どもをみてあげることが大切だということを知ってもらえるような活動をしてほしいです・・・」

また、改めて退所生への支援の重要性について考えさせられるとともに、今後の支援に向けた示唆ともなる記述も見られた。

「施設を退所した人向けの支援があると嬉しいです。孤独感がすごいです。相談する友人はいるものの、寂しさを埋められるのは一時的です。」

「施設出身の方の中には本当に困っていても頼れる人や相談できる人がいないような方もいるかもしれないと思います。いろいろな理由があるかもしれないですが、心のよりどころや一緒にどうしたら良いか考えてくれる人がいると心強いので、本人からの発信を待つだけでなく周囲からも声をかけてあげるような支援も必要だと思っています。」

「今回のコロナの影響で本当に苦しかったので、この支援は助かりました。年2回ほどあると大変助かります。」

「園を退所してからは、今回の物資等の支援がなかったので、物資が手元に届いたときは本当にうれしかったです！！なので少しでも園との関わりが出来るようなイベントがあったりするの嬉しいかなと思います。退所した子達が一年に一回会える場を設けてもらうなど・・・！！」

※本アンケート調査の単純集計については、【資料2】P101に掲載。